

## 令和7年度 第3回 政策企画室人権行政推進委員会

日 時 令和8年3月30日（月）9時30分～

出席者 室長、理事、秘書部長、総務担当部長、企画部長、  
市民情報部長、東京事務所長、秘書部秘書課長、  
企画部政策企画担当課長、市民情報部広報担当課長、  
東京事務所副所長、秘書課総務担当課長代理、  
秘書課担当係長（総務グループ）

議 題 ・ 令和7年度室取組結果について

# 令和7年度人権行政推進にかかる取組について

- 身近な人権課題について考えるきっかけ作りとして、今年度は秘書部と市民情報部が啓発資料を作成し室内周知した後、啓発資料を基に各部で人権の視点から日常業務で活かせる事例がないか検証した。また、検証結果について、各部の取組を室内で共有。

「高齢者」「障がいのある人」をテーマに、人権に関する現状と課題を認識し、理解を深めるとともに、職員としての役割や課題解決のために適切な判断や行動をとることをめざし、啓発資料を作成

・秘書部：「高齢者の人権」 7月28日発行 ・市民情報部：「障がいのある人」 1月29日発行

- 各部「取組事例のご紹介」の室内共有 3月11日発行

【取組事例】

- ・会議室等の場所をわかりやすく伝えるため、文字や図を大きく表示した案内図を作成
- ・市民対応用の「指さし会話版」や「コミュニケーションボード」の設置 など

- アンケート結果 回収率：約54%（参考：令和6年度 59%）

- 理解できた 84.5%・まあまあ理解できた 13.6%  
※理解できたとまあまあ理解できたを合わせると98.2%
- 役に立った 80.0%・まあまあ役に立った 17.3%  
※役に立ったとまあまあ役に立ったを合わせると97.3%

- 取組結果

各部持ち回りで資料を作成し、各人権課題について、担当部署の業務と関連させながら調べ、発信することで、行政として知っておくべき情報をより身近なものとして伝えることができた。さらに、日常業務における改善の取組について各担当での検討および他担当の事例共有によるさらなる検討の機会を設けたことで人権意識の醸成につながった。

【課題】

啓発資料の作成に想定以上の時間を要し、アンケートの回答期間が十分に確保できなかったため、啓発資料の作成時期の見直しを検討したい。また、日常業務における取組事例の検討・実施にかかる期間をより多く設けることが必要である。

- 市職員による差別発言事象の発生をうけ、職員一人ひとりが人権行政の担い手であるという自覚を徹底するとともに人権侵害に対する感度を高めるため、室で次の取組を実施

- 上司（課長）から、課長代理級以下の全職員を対象に、事象を説明したうえで意見交換を実施
- 差別事象対応マニュアルを全職員あてメールで周知
- 人権問題研修の実施状況の確認及び未受講者への受講勧奨

## 今後に向けて

大阪市職員による差別発言事象が発生している中、啓発資料の発行がスケジュールどおりにできなかったことや室取組のアンケートにかかる回答率が低下している。

職員一人ひとりが人権行政の担い手であるという意識の徹底・差別や人権侵害に対する感度を高める取組が必要

大阪市人権行政推進計画～人権ナビゲーション～に基づく  
「人権の視点！100！」実行プログラム評価シート

所属名	政策企画室	
※日付入力→		2026/3/
		現在
①実施年度	② 担当課名（担当者名）	③ 電話番号
令和 7 年度	秘書課（総務グループ）西川	06-6208-7232
実行プログラム（人権尊重の視点からの行政運営を推進するための取組み）について		
④ プログラムの名称	身近な人権課題について考えよう	
⑤ プログラムの概要（実施者、対象者、場所、時期、内容など）	策定時（当初目標）	実施結果（実施後）
	<p>【実施者】 全職員</p> <p>【内容】 意識啓発資料を昨年度に引き続き各部持ち回りで作成し、各テーマの人権について理解を深めるとともに、資料を基に日常業務で活かせる事例がないか各部で検証しフィードバックしてもらう。検証後はアンケートを実施し、本取組の効果を次年度の取組に繋げる。</p>	<p>【実施者】 全職員</p> <p>【内容】 ●意識啓発資料の発行 ・第1回「高齢者の人権」（秘書部） ・第2回「障がいのある人の人権」（市民情報部） ●日常業務における取組事例の集約とフィードバックを実施 ●アンケートの実施</p>
⑥ 行動（行為）目標／ 行動（行為）実績	<p>意識啓発資料を基に意識向上を図り、各部でフィードバックすることで、日常業務で改善できないか確認する。</p> <p>取組についてアンケートを実施し、取組を理解したと回答する職員が85%となることを目標とする。</p>	<p>意識啓発資料の発行、各部の日常業務における改善取組及びそのフィードバックを実施し、取組についてのアンケートを実施</p> <p>実績：理解度の把握に着目したアンケートの質問に対して、「理解できた」と回答した職員が85%となり、「まあまあ理解できた」も含めると、95%以上の職員が理解できたと回答した。</p>

<p>⑦ 期待していた効果／ 実施後に判明した効果</p>	<p>各テーマの課題についての正確な理解を基に、職員としての役割や課題解決のために適切な判断や行動（情報発信）ができる。</p>	<p>各テーマの人権課題について職員向けに啓発を行うことで、職員が自身の役割を認識し、課題解決に向けて適切な判断や行動（情報発信）ができるよう、知識の習得及び人権意識の醸成に寄与した。</p> <p>啓発後、日常業務における取組事例を各部署で検討し、さらに事例を室内で共有することで、人権課題を身近なものにとらえる機会へとつなげ、人権行政推進に対する職員の意識向上をはかることができた。</p>
<p>⑧ 実施経過</p> <p style="color: red;">※策定時の実施スケジュールではなく、実績ベースで記載してください。 ※行の追加・削除はご遠慮ください（着色セルの拡大・結合は可）</p>		
<p>上半期</p>	<p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p>	<p>プログラムの策定（第1回人権行政推進委員会の開催）</p> <p>意識啓発資料の発行①各部署でのフィードバック</p>
<p>下半期</p>	<p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p>	<p>意識啓発資料の発行②各部署でのフィードバック</p> <p>各部署での日常業務の改善にむけたフィードバック事例の集約</p> <p>フィードバック事例の室内共有 取組についてのアンケート実施・結果分析及び来年度の取組の検討 プログラムの評価（第2回人権行政推進委員会の開催）</p>
<p>⑨ 市民・職員からの意見・感想など</p>	<p>啓発資料について：改めて相手の立場に立って考えることの重要性を学んだ、ホームページ作成や市民対応という日常的な業務における留意点に絞っており、すぐに活用・実践できると思った、など</p> <p>取組事例のフィードバックについて：自部署の取組検討、他部署の取組内容の共有により、自分事として考えられた、自分の業務を見つめなおすきっかけになった、など</p>	

⑩ 実施により強化できた「人権の視点！100！」の項目 ※プルダウン選択	伝える	聴く・知る	備える	支える	つながる	務める
	(情報公開・広報)	(広聴)	(環境整備)	(行政サービス)	(協働)	(事業者としての責任)
策定時	○	○		○		
実施後	○	○	○	○		
⑪ 策定時と実施後の評価を比較して上記のように分析した理由	<p>各テーマに関する理解を深めることが、人権尊重の行政運営につながるため、「伝える」（情報公開・広報）、「聴く・知る」（公聴）、「支える」（行政サービス）の強化に寄与するものとする。</p> <p>また、日常業務における取組事例の検討・実行において、職場環境の改善取組が挙げられ、結果的に環境面においても寄与する取組となった。</p>					
⑫ 項目別評価 ※プルダウン選択						
取組み内容	<p>以下は、「人権の視点！100！」を踏まえた事業や取組みとして、「人権尊重の視点からの行政運営」を推進するためのものとなっていたかという点で、</p> <p>○ 取組み例としては一般的であった</p>					
効果の程度	<p>以下は、人権尊重の視点からの課題の解決、行政運営の実現にあたり、達成目標が明確であり、その効果が広く市民サービスの向上等に効果があったかという点で、</p> <p>○ 期待していたとおりの効果があった</p>					
推進体制	<p>以下は、策定した実行プログラムを遂行できる推進体制、進捗管理及び成果の検証方法が確立できていたかという点で、</p> <p>○ 遂行に支障のない程度の推進体制だった</p>					
わかりやすさ	<p>以下は、取組みの進捗状況や成果が、市民や職員にわかりやすく伝わったかという点で、</p> <p>○ おおむねわかりやすく伝わった</p>					
普及性	<p>以下は、取組み結果が特定の市民に有効なものではなく、検証や改善により幅広い市民や他の所属でも普及又は応用が可能なものであったかという点で、</p> <p>○ 所属内の他の業務には普及又は応用できる</p>					
費用対効果	<p>以下は、取組みのためにかかった費用又は職員の時間や負担に対して明確な効果があったかという点で、</p> <p>○ 期待していたとおりの効果があった</p>					

評価の総括 ※所属人権行政推進委員会等として記入してください。

<p>⑬ 実行プログラム全体を通して「人権尊重の視点」から評価できるところ</p>	<p>各部持ち回りで資料を作成し、各人権課題について、担当部署の業務と関連させながら調べ、発信することで、行政として知っておくべき情報をより身近なものとして伝えることができた。さらに、日常業務における改善の取組について各担当での検討および他担当の事例共有によるさらなる検討の機会を設けたことで人権意識の醸成につながった。</p>
<p>⑭ 実行プログラム全体を通しての反省点</p>	<p>啓発資料の作成に想定以上の時間を要し、アンケートの回答期間が十分に確保できなかったため、啓発資料の作成時期の見直しを検討したい。また、日常業務における取組事例の検討・実施にかかる期間をより多く設ければ、さらなる日常業務の改善・見直しにつながると考えられ、より効果的な内容となるよう引き続き検討したい。</p>
<p>⑮ 今回の評価結果を踏まえて所属の業務又は次期実行プログラムを改善するところ</p>	<p>今年度実施したアンケート調査結果にて得られた、職員の興味が高い分野情報を踏まえたうえで、さらに日常業務の改善・見直しにつながるような取組内容を検討し、効果的な取組としたい。</p>
<p>⑯ 人権行政推進委員会等委員長（所属長）のコメント</p>	<p>人権意識の啓発資料を各部で持ち回り作成するだけでなく、今年度から新たに、作成した資料を基に、日常業務で人権の視点から活かせる事例がないか検証し、その結果を室内全体にフィードバックすることで、意識向上だけでなく、日常業務の見直しに繋がりより効果的な取組となった。今後も、さまざまな人権課題について、正確な理解を基に、職員としての役割や課題解決のために適切な判断や行動ができるよう、意識の醸成にとどまらず、より効果的な取組を実施していきたい。</p>